

# ハート・オブ・ゴールド

## 通信



vol.27

2012年7月9日発行

発行 / 編集 ハート・オブ・ゴールド事務局  
本部 〒701-1213 岡山市北区西辛川895-7  
レジデンスアロー101  
TEL&FAX 086-284-9700  
E-mail:hginfo@hofg.org

URL : <http://www.hofg.org/>



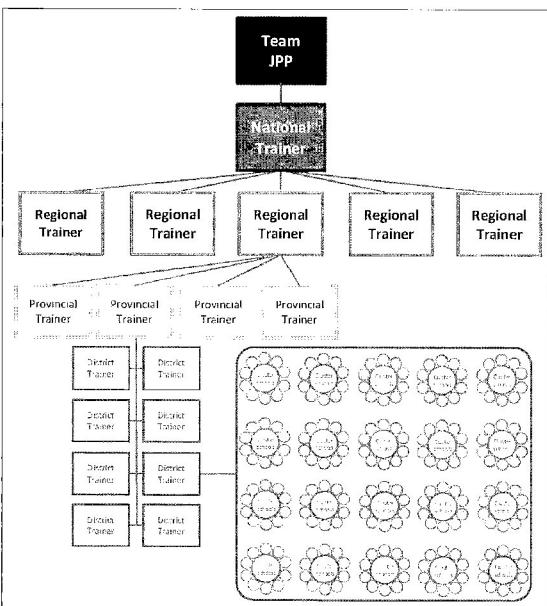
## 『カンボジア体育の成長』

プロジェクトマネージャー 山口 拓

体育科教育振興支援事業 [RECTI-PE]  
JICA 草の根パートナー型支援事業 (JPP)

今回は、本事業の展開状況をお伝えする。なお、RECTI制度の全体的な流れは以下の通り。

### ○ RECTI 制度の流れ



\* Team JPPとは、HGを中心とする日本の支援を指し、専門家としての機能を有する。次に国の担当官=NTは、指導者および助言者としての役割を担う。さらに、地域の担当者=RTは、学習者および地域伝達者となり、州の担当者=PTを次段階で指導する。

本RECTI-PE事業も最終段階へ突入し、「7人の侍」=メインNT 6名+当会のナショナル・スタッフ(チェトラ)に加え、サブNT 6名の奮闘ぶりが、やっと視覚化されるようになった。専門家の助言や学校及び民間企業などからのサポートを頂きながら、1.人材育成、2.体制整備という視点で支援を展開し、当初は、5州5校の研究指定小学校を設置することを目的とした。しかし結果は、当初の予想を上回る「5州6校の研究指定小学校」と「2州2校の研究指定養成校」が設置されるまでに至っている。

これで第2フェーズを終したが、未だ、カンボジア人による持続可能な小学校体育振興を実現するには幾つかの課題が残っている。

本事業終了後の課題点では、①教育省内におけるRECTI制度の周知・定着、②教育省による体育普及に関する財源保障、③教育省によるRECTI制度の深化・定着、④フィールド・モニタリングの制度強化、⑤

学習効果を高める視覚教材の創造、⑥体育に関する統計・分析制度の開発などである。未だ計画段階だが、本年9月には指導要領の認定および仮導入、来年9月からはRECTI制度の深化を目指す予定。Team Jpn(当会を中心とした支援者)がアドバイザーとなって、NTを専門家に育成し、そのNTによってRTを指導者に、RTがPTを州内伝達者に育成するなど、広域的な伝達が開始される予定です。先述した課題を考慮しつつ、実務者等と共に歩みを進めて行きたいと考えている。

また、これまででは、JICAや筑波大学、そしてHG専門家ならびに日本の民間企業や学校、そして本部のある岡山県や岡山市の協力を受けて、ヒト・モノ・カネによるバランスの取れた支援が展開されていたが、施設不足、教具不足、人材不足、資金不足に悩まされている。また今後は、事業の達成のみならず、成果および評価を追求しつつ、その有効性や必要性を発信していきたいとも考えている。

\* RECTI制度とは、体育科教育技術を、中央⇒地方⇒州⇒郡へと普及していく人材育成方法

アンコールワット国際ハーフマラソン 2012年12月2日(日) 開催 参加者募集中!

## ニューチャイルドケアーセンター（NCCC） ハートペアレント（里親）事業

エイズ孤児や貧困から行き場を失った子ども達に対して、養教育を行い、社会人として自立させる支援活動。

現地責任者の檜尾先生が度々センターに行き、若いスタッフの相談相手となり子ども達の生活、語学、情操教育に力を注いでいる。

なお、かねてより要望のあった防犯のためのセンターの塀と門の工事に取り掛かることができた。



現在の状況（2011年度末）は、支援の里子が16名、職員は、檜尾睦、ヴィー・タイリー、リー・ワンヌウム、ヴァン・ソコンティアほか。



※11月29日出発のスタディツアーデでは、センター訪問を予定している。

## HG むつみ日本語教室

日本の多くの学校から送られた心のこもった教材や掲示物を教室内に飾り、それらを使って授業進めている。



チュート・スライノッチと両親

昨年12月、日本での日本語教師養成研修を終えたゲ・チョンパーは、帰国後、毎日午前、午後とも檜尾先生と一緒に日本語教師として指導を行っている。

岡山学芸館高校に留学していたテン・ワンニダー（5期生）は、12月に行われた日本語能力試験N2の難関に合格。実に快挙であった。帰国後、高校2年生に復学し、また日本語教室の手伝いもしている。

引き続き本年度の留学生として、



日本語教師のチョンパー先生

チュート・スライノッチ（6期生）が同校に4月より入学し、留学里親の方々のご厚意のもと、充実した学校生活を過ごしている。

## 高野山真言宗とカンボジア支援協定

2012年1月17日、HGは、高野山真言宗とカンボジア支援協定を結んだ。

6月18日から備中宗務支所内有志寺院の会「南真会」の有志の方が、HGのシェムリアップの活動現場を訪問された。

19日午前にはNCCCへの来訪記念として、センターの一角に祈祷像を設置。薬師如来像の開眼法要が執り行われた。その後、



南真会 片岡良仁僧正による法話

子どもたちへのご法話をいただき



協定後の有森代表、松長管長、庄野宗務総長

た。子どもたちが祈る場所をいただき、祈る心が、今後彼らが生きていく助けになることを、関係者一同強く感じた。

## 第22回かすみがうらマラソン

4月15日(日)、好天に恵まれ、開催された。日本で3番目の規模の大会は、今回も27,000人(過去最多)の参加者を迎えた。

カンボジアから2人のランナーが招待され、キエン・サモーン氏は10マイル(約16km)を、ニヨック・キムホー氏は5kmを見事に走り切った。実行委員会からは100万円の支援金がHGに託された。

また、ハート・オブ・ゴールドのブースも設置し、有森裕子代表のチャリティーサイン会やチャリティーグッズの販売を通じて、これからカンボジアの障がい者や



子ども達のための支援金を集めることができた。

※キエン・サモーン氏は、ロンドンオリンピック800mのカンボジア代表として選ばれた。

## 第32回篠山ABCマラソン大会

3月4日(日)、今回初めてカンボジア留学生テン・ワンニダーが開会式に出席し、長年の支援に対しお礼の挨拶をする。

当日早朝はよく晴れていたが、9時頃から徐々に曇り、スタート後しばらく始め1時間後本降りとなる中、1万人のランナーが丹波路を疾走しました。気温も4~5℃と非常に寒い1日でしたが、HGブースには多くのランナーの方々にお越し頂いた。実行委員会からは、55万円の净財が託された。



## 第2回淀川国際ハーフマラソン

### 有森裕子ハート・オブ・ゴールド支援レース

3月20日(火、祝)、大阪の河川公園にて、昨年に引き続き「3.11子どもanimoプロジェクト」の支援レースとして、晴天の中、3kmファミリー、10km、ハーフに6,000人余のランナーが参加し、楽しく快走した。ランナーから1\$募金として、67万3500円が集まった。



## 宇都宮環状線一周マラソン「ミヤラン」 味わおう！景色とスイーツ

4月22日(日)宇都宮初のフルマラソンイベントとして、景色とスイーツを味わいながら仲間と楽しむ走る“初心者向け”フルマラソン体験コースとして開催された。

当日、HG会員で栃木県トライアスロン協会の伊藤秀明氏のご協力のもとHGブースを設置し、広報並びに募金を呼びかけ、北関東地域での支援拡大の活動を行った。



## バレンタイン・チャリティ・ディナー

2月17日(金)、東京アメリカンクラブにて華やかに、第6回チャリティーデナーが開催された。

昨年と同様HGの活動報告から、恒例のチャリティ・オークション、“TAP DO！”(タップダンス&エンターテイメントコメディショウ)のミニライブ、くじ引きなど楽しい企画が盛りたくさんであった。

チケット売上、オークション、募金箱、寄付金などの収益金並びに支援金の総額4,265,296円はHGの活動資金として、大切に使わせていただく。実行委員会の皆様にも心より感謝いたします。

## 3.11 子ども animo プロジェクト (2012.1 ~ 6)

2011.3.11に起った未曾有の東日本大震災に対して、HGは、緊急救援とその後の復興支援を HG 石巻クラブと HG 福島クラブと連携して、協力者を募りながら活動した。復興の最も大きな柱となるのは「教育」である。昔からいつの時代も、日本の発展を支えたのは「教育」の力であった。HGが行ってきたカンボジアでの活動も、人材育成、教育である。明日を担う子ども達と、そしてそれを支える現場の先生たちが元気になれるよう、1日も早い復興を願いながら支援活動を継続している。

復興に向けて歩みだした被災地を再び訪れ、地元の人々と触れ合いながら、今後の支援の方向を確認するために、3月12日～15日にかけて、有森代表を含む会員約20名が、支援先（宮城県）を訪問した。

①東松島市立野蒜小学校には、絵画（Parasa & Dinky Dinos, Rainbow）を贈呈（株）JSMコンサルティング協力）  
野蒜小学校：体力づくり（体育授業）に参加。その後、



「駅伝日本一周チャレンジラン」のたすきを贈呈  
(野蒜小学校・蛇田小学校)

②石巻市立蛇田小学校には、カナダガーデン寄贈

(日本警察・消防スポーツ連盟カナダ支部協力)

③現地で活動する他のNPOの活動見学

福島県での活動は、HG 福島クラブを中心に、随時、原発から避難している飯館村、浪江町の仮設住宅で暮らす方々に寄り添って、支援活動を進めている。

全国的には震災の記憶が薄らいできている中、まだまだ復興には程遠く、皆様方の支援をいただきて、HGは長い道のりを歩きたいと考えている。

## 2012年会員アンケートを終えて

九州大学 藤本 穂彦（社会調査）

えるものについて、上位3つを選んで頂いたものを集計したものである。ベスト3は、1. 国内活動、2. AWHM（アンコールワット国際ハーフマラソン）、3. 青少年交流であった。スポーツNGOとしてAWHMの継続に重点を置きつつも、国内での国際理解教育やスポーツイベントの開催、青少年交流の充実が、これからHGの活動に求められているようだ。

さらに順位は、4. 東日本大震災支援、5. NCCC（ニューチャイルドケアセンター）、5. 体育教科支援、7. 日本語教室と続くが、どの活動も一定数の支持を得ている。HGの10年の歩みが、スポーツNGOのミッションを追及しながら、それだけに留まらず、困っている人々に寄り添い、悩みや課題を解決し期待に応えようと幅広く活動してきたことに対する評価だと言える。

今後を展望するにあたり、「スポーツを通じた国際協力」を柱にしつつ、「困っている人々の悩みや課題に、幅広く柔軟に応える」という、シンプルな、草の根の国際協力の理念が生きた団体運営の継続という会員の期待が、本アンケート調査より見えてきた。

2012年4月、これまでの振り返りを行い、今後のHGの活動の焦点を定めていくために、会員の皆様にアンケート調査を行った。正会員445名（2012年3月末現在）に調査票を配布し、259票の回答を得た（回収率：58.2%、平均年齢：58.9歳）。

3年以上活動を継続している会員が78.9%（n=257）で、77.2%（n=241）がHGの活動について「満足している」との回答が得られた。多くの会員に、これまでのHGの活動を肯定的に評価して頂いており、継続的な支援を頂いている様子が窺える。

下表は、これからHGの活動として重要だと考

	度数	%
1 国内活動	143	20.4
2 AWHM	142	20.2
3 青少年交流	99	14.1
4 東日本支援	94	13.4
5 NCCC	86	12.3
6 体育教科支援	86	12.3
7 日本語教育	52	7.4
合 計	702	100.0

## 退任のご挨拶

山口 拓

2001年12月に有森代表と田代事務局長と初めての会談を持ってから早11年半が経過しました。2001年から主に東ティモールを担当して活動を開始し、2004年からカンボジアに、東南アジア地域(SEA)事務所を開設。その後、マラソン事業をはじめ、2006年からのJICA事業を主に担当し、充実した日々を送ることができました。

当初の目標であった「マラソン事業の現地化」をすすめ、また、体育支援事業が発展的な支援活動へと転換していくなかで、HGが「スポーツを通じた国際開発」に着手できしたことなど、私に課せられた役目を達成できたのではないかと考えます。

在任中は、本当に多くの方々からのご支援とご協力、励ましとご指導を頂き、本当にありがとうございました。

この度、次のステップに進むこととなりましたが、今後もHGのメンバーとして皆様と共に支えていければと感じています。HGと、そして皆様の今後の益々のご繁栄とご活躍を心からお祈りしています。

\* \* \*

## 着任のご挨拶

西山 直樹

2012年4月からカンボジアの地に赴任しました。

こちらに到着して、約2カ月が経過します。その間、前所長の山口さんよりいろいろな引継ぎを受けました。山口さんの築いてこられたネットワークには、日々、驚きの連続で、長く在籍された方の後を引継ぐということは本当に難しいことだと思っています。

私は、小学校6年の頃より、国際協力を志し、アメリカ、サンディエゴの大学を卒業後、1年間の塾講師の経験の後、青年海外協力隊で2年間パラグアイに赴任しました。

2007年に帰国し、JICAで4年間半、市民参加事業を担当して、今回ご縁があり、再び国際協力の現場で仕事をする機会を頂きました。山口さんとは、業務へのスタンスも大きく異なりますが、今まで築いてこられた関係や経験を大切にし、新しい自分らしさも出して、職務に専念したいと考えています。

カンボジアの状況をできるだけ多く皆さんにお伝えしたいと考えていますので、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

## 活動報告(2012年前半)

- 1/17 高野山貞言宗との協力協定締結  
2/5-11 専門家カンボジア派遣<体育科振興 p>  
2/17 バレンタイン・チャリティ・ディナー(東京)  
HG 西日本チャリティ耐寒登山(大阪)  
2/19-24 専門家カンボジア派遣<体育科振興 p>  
3/3-11 岡山大学生カンボジアスタディツアーリ受人  
3/4 第32回篠山ABCマラソン  
3/12-14 スタディツアーレス3.11p>(東松島、石巻)  
3/20 第2回淀川国際ハーフマラソン(大阪)  
3/21 第5期留学生帰国  
3/26 第6期留学生来日(岡山)  
4/13-17 カンボジア人ランナー招聘(東京・土浦)  
4/15 第22回かすみがうらマラソン(土浦)  
東日本会員交流会(東京)  
4/22 宇都宮環状線一周ランニング「ミヤラン」  
5/13 東京ドラゴンボート大会2012  
5/20 '12 ArimoriCupマラソン(北海道むかわ町)  
animotoチャリティ・バザー(岡山)  
5/29 HG理事会(東京)  
6/3-9/3 パリ展「JICAボランティアスポーツ隊員」参加(名古屋)  
6/18 「animotoの会」(岡山)  
6/20 HG総会、会員交流会(岡山)

## 活動予定(2012年後半) 多少の変更あり

- 7/2 岡山県技術研修員来日(岡山)  
7/12 自治体国際化協会事例報告会(東京)  
7/13-16 アグリプロ211&ヤンマー創業100周年感謝祭  
7/15 第46回岡山県母親大会  
8/25 「地雷を踏んだらサヨウナラ」上映会&トーク  
8/31 HG長岡クラブ発足式(長岡)  
9/9 第2回たまの親子チャリティラン in おもちゃ王国(玉野)  
9/16 第6回吹田中の島チャリティ・ラン(大阪)  
10/30 岡山県技術研修員帰国  
11/29-12/4 AWHMスタディツアーリ  
11/30 アンコールウォーキング  
12/1 AWHM前夜祭  
12/2 第17回アンコールワット国際ハーフマラソン

## 「カンボジア小学校体育科教育普及事業」 に対して大臣から感謝状授与



JICAカンボジア事務所長の鈴木氏(左)  
東南アジア事務所長山口氏(中左)  
イム・セティ教育省大臣(中右)  
教育省青年体育スポーツ局のチョムラン局長(右)